

子どもたちの確かな学力の育成のために【家庭版】

4月に行われた、令和7年度『全国学力・学習状況調査』及び『とちぎっ子学習状況調査』の結果をもとに、栃木市の子どもたちのよくできたこと、課題が見られたことや、生活習慣から見えてきた傾向についてまとめました。

各教科の結果について

各教科の平均正答率は、全国・県と同程度でした。ここでは本市として、「よくできたこと」と「課題が見られたこと」をお知らせします。

◎よくできたこと

★小4・5はとちぎっ子学習状況調査（国語・算数・理科実施）、小6は全国学力・学習状況調査（国語・算数・理科実施）
中2はとちぎっ子学習状況調査（5教科実施）、中3は全国学力・学習状況調査（国語・数学・理科実施）

小学校4・5・6年

国語：漢字の読み書きや言葉の意味について理解すること
算数：基本的な四則計算をすること
理科：実験方法を考えたり、実験方法が適切であったか検討したりしたことを表現すること

中学校2・3年

国語：集めた材料を整理して、伝えたい内容をまとめること
社会：地理に関する資料の特色を読み取ること
数学：図形の移動や確率について理解すること
理科：身近な自然現象に関する基礎的な知識・技能を身に付けること
英語：意味が通る文になるように、単語の形を変えたり、単語を並べ替えたりすること



基礎的・基本的な内容の理解や資料から情報を読み取ることについてはおおむね良好でした。

▽課題が見られたこと

小学校4・5・6年

国語：目的に応じた情報の活用や自分の考えを適切に表現すること
算数：場面や数量の関係をとらえて、言葉や数、式を用いて説明すること
理科：観察・実験の結果や身に付けた知識・技能を関連付けながら判断したり、考察したりすること

中学校2・3年

国語：根拠を明確にして自分の考えを表現することや、文章から人物の心情や表現の工夫等を読み取ること
社会：複数の歴史資料を関連付けて考察し、文章で説明することや表現すること
数学：条件や情報を基に、数量の関係を見出し、数学的な表現を用いて論理的に説明すること
理科：生命や地球に関して身に付けた知識・技能を関連付けながら考え、適切に表現すること
英語：与えられた情報に基づき、英語を使って自分なりの言葉でまとめたり、自分の考えを書いたりすること

学習した知識や、複数の情報を関連させて考えを深めることや、自分の考えを筋道を立てて説明することに課題が見られました。

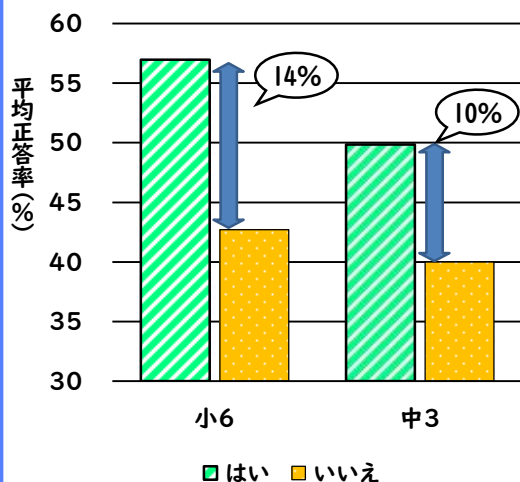


生活習慣は子どもたちの学習にも関連しています

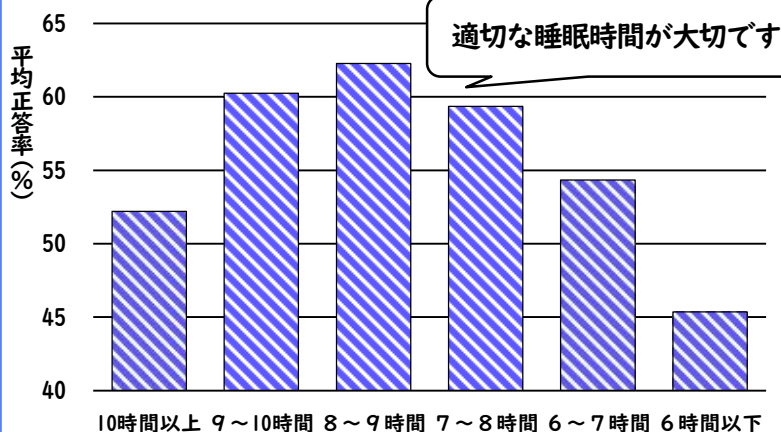


児童生徒質問紙の回答と平均正答率の関係をみると、毎日朝食を食べたり、適切な睡眠時間をとったりするなど、生活習慣が整っている児童生徒は、平均正答率が高い傾向にあります。

朝食を毎日食べていますか



ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか
(小4、小5、中2の合計)

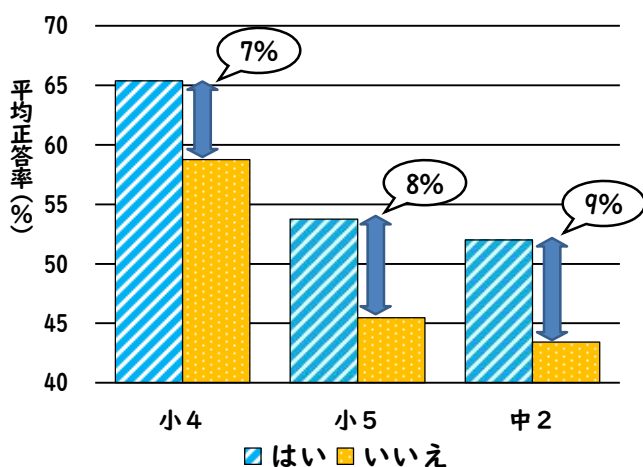


家庭での会話が、子どもの主体的な学びを育みます



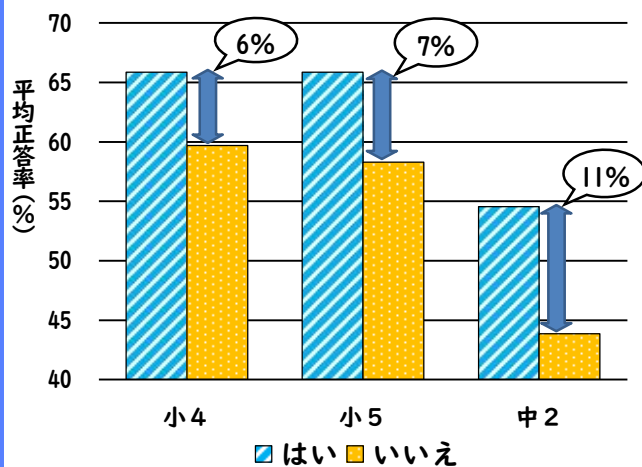
家の人と学習について話すことは、子どもが自分の学習状況を客観的に見つめ、主体的な学びを進める助けとなります。この主体性が計画的な学習を促し、子どもたちの「確かな学力」の定着へと結びついていきます。

家の人と学習について話していますか



会話を通じて認めたり励ましたりすることで、子どもの自信や意欲を高めることにつながります。

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



自分で計画を立てて勉強している子どもは、平均正答率も高い傾向が見られます。

**毎日の規則正しい生活習慣と家庭でのコミュニケーションが大切です。
お子さんの結果を見ながら生活や学習のことについて話してみませんか。**

グラフの見方：児童生徒質問紙の4段階回答のうち、肯定群を「はい」否定群を「いいえ」として、平均正答率との関係を示しています。